



**大阪部会(第 29 回)**

日 時: 2012 年 6 月 16 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学大阪サテライト

**【内容要旨】**

第 29 回の大阪部会は、同志社大学大阪サテライトにて開催された。出席者は 14 名。

- (1) まず初めに、経済教育ネットワークの野間から、何点かの活動報告を行った。中でも 7,8 月に開催される「先生のための経済教室」の内容確認と参加申し込み状況の紹介があり、広島の中学校と高校の日程変更を予定していることなどが報告された。
- (2) 上畑直久氏(京都御池中学校)より、中学公民的分野の「消費生活と経済のしくみ」の学習指導案(単元計画、授業計画、ワークシート、補助教材、展開案なども含む)が報告された。授業内容は、クレジットカードで買い物をした後、売買契約を解消してカード会社への支払いを途中で停止できるかどうかを検討・議論することを通じて、「契約」について考えさせるものとなっている。この授業は、「消費者の権利と保護」や「契約」についての考え方を、弁護士の協力を得ながら学んだ後の授業として、位置づけられている。売買契約とクレジット契約の関係など複雑な構造をもつため、中学生に学ばせるのに適切なレベルかという意見はあったが、非常に充実した教材であり、多くの議論がかわされた。
- (3) 河原和之氏(関西大学中等部)から、中学公民冒頭の現代社会の特色のひとつ「少子高齢化」を学ぶ教材「日本の少子化対策を考える」の紹介があった。少子高齢化の現状を学び、その原因を考えさせた後、少子化対策を個人およびグループ単位で提案させる。それらをマンダラ型にまとめたり、マトリクスで分類・位置づけすることも作業させている。さらに他社の提案に対して、問題点を考えさせることも行っている。学校によっては、もう少し段階をおかないと狙い通りには生徒がついてこないかもという意見もあったが、狙いも運び方もはっきりしており、作業や発表機会も与えるなど、参考になる点の多い教材紹介であった。
- (4) 東京部会で配布された宮尾尊弘氏の資料にもとづいて、現代の経済問題に需要・供給の考え方を応用する場合のポイントが紹介された。あわせて、中川雅之氏による、「効率と公正」「幸福、正義、公正」を経済学でどう考えるかを示した図と資料も配付された。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 日時場所ともに未定